

ともに

生産者と消費者を 安全で結ぶ懸け橋に



全国農業協同組合連合会
代表理事 理事長
宮下 弘 さん

コープネットと全農は事業協力を推進しています。コープながの・いばらきコープとは協同組合間提携を結んで連携を強めるとともに、組合員と生産者の交流や、地域農産物の生産・消費の活性化、国産農畜産物の消費拡大に取り組んでおり、現在ちばコープとも調印に向け、準備を進めています。

今、世の中では原油をはじめ、いろいろな物が値上がりをしています。畜産業界では、家畜の飼料原料が2~3倍の価格となり、過去最高を記録。廃業に追い込まれる畜産農家も少なくありません。

このような状況を打開するために期待されているのが「飼料米」の取り組みです。飼料用のトモロコシはほとんどが輸入されたものです。その代替に、国内で生産された飼料米を家畜の飼料にすることで、飼料の自給率向上、休耕田の有効利用と連作障害を防ぐことができます。この取り組みを進めるため、コープネットと全農岩手県本部は、他関係団体を含む7者間で飼料米による産直豚肉生産

事業の調印式を5月に行いました。

今、我々がすべきことは“日本国民の食料をどう守り、確保するか”を第一に考えること。日本の水田がどれだけ余っていて、どんな活用方法があるのか。水田の機能を生かしていくことで、自然と自給率は上がっていくのではないのでしょうか。

また、消費動向を踏まえて、コープネットの要望に合った産地をどのように作っていくか、もう一段高いレベルで何を考えるかを考えなければなりません。生産管理をしっかり行っている農畜産物を提供し、生産履歴の記帳の徹底を通じ、安全な農畜産物をつくり、お届けすること、それが全農グループの役目です。

日本の農畜産物を担うものとして、生産者が丹精込めて育てた農畜産物をできる限り無駄のないように消費者に供給する。コープネットグループの340万世帯を超える組合員の皆さんに安定的に国産の農畜産物をお届けできるよう、今後も生産者と消費者の懸け橋となるべく、コープネットとともに日本の農業を支えていきたいと思ひます。合わせて、適正な価格についてのご理解を是非お願いいたします。

※中面、「飼料米」のレポートもあわせてご覧ください。

Information

「CO・OP食事バランスご膳」新発売

「食事バランスガイド」を活用し、1食で「何を」「どれだけ」食べたらよいかの目安となる分量を盛り付けた「CO・OP食事バランスセット」。2007年10月の発売以来、大変ご好評をいただいています。今回、新たなコンセプト商品として「CO・OP食事バランスご膳」シリーズが仲間入りしました。



※写真は「うめ」です

(7月からコープデリ・店舗で順次発売)

CO・OP食事バランスご膳
「さくら」「うめ」「あやめ」「もみじ」 各580円

【特徴】

- ・15品目以上の食材を使用。エネルギーを500kcal以下、食塩相当量を2g以下に抑えました
- ・9つのマスで仕切ることでごはんとおかずを彩りよく配置し、互いに味が混ざらなくしました
- ・冷凍食品なので、レンジで温めるだけで手軽にご利用できます

2008年度概況(会員生協合計)

| 事業高 | 組合員数 | 出資金 | 店舗数 | 宅配センター数 | 職員数 正規職員 | パート職員 |
|----------------------------|---------|-------|-------|---------|----------|---------|
| 410.4億円 (2008年4月度からの累計) | 344.1万人 | 984億円 | 185店舗 | 122カ所 | 4,773人 | 17,797人 |

※2008年5月20日現在



コープネット

検索

<http://www.coopnet.jp/>

CO-OP
コープネット

コープネットグループ理念 CO-OP ともに はぐくむ 暮らしと未来

コープネット レポート



宇都宮市に特別養護老人ホームをオープン 冷凍加工品の原産国、原材料原産地表示を拡大 ほか



「飼料米」による産直豚肉生産事業をスタート
(5月21日 岩手県花巻市)
コープネットグループの飼料米を育てる水田で、田植えを体験

発行 2008年7月1日 コープネット事業連合広報ネットワーク 〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1丁目4番13号 TEL 048(839)1849

自給率向上 飼料米による産直豚肉生産事業をスタート

5月21日、「飼料米による産直豚肉生産」の調印式が岩手県花巻市の花巻農協営農指導拠点センターで行われ、地元マスコミの皆さまに記者発表いたしました。

この取り組みを通して、休耕田の有効活用や飼料の自給率向上が期待されており、コープネットでは産直提携事業の一環として推進していきます。

花巻農協、JA全農岩手県本部など、6つの団体・企業と共同で取り組み、2008年から2010年まで年間6000頭（月産500頭）を生産し、来春より組合員へ豚肉の供給を始める予定です。

※今月号の「ともに」(裏表紙)は、JA全農理事長 宮下 弘さんのインタビュー記事をご紹介します。



◀無事に調印を終え、固い握手を披露



▲組合員理事が飼料米田植えを体験

信頼回復 冷凍加工品の原産国、原材料原産地表示を拡大

「CO・OP手作り餃子」による重大中毒事故をきっかけに、「商品の原産国や原料の原産地を表示して欲しい」という要望を組合員の皆さまから数多くいただきました。これを受け、コープデリ宅配事業では、すべての商品カタログに掲載する冷凍加工品の原産国や主原料の原産地表示を始めています。

店舗事業も同様に、5月下旬から冷凍加工品売り場にショーカードを設置し、常時約20品目の製造国、主原料と原産地をご案内しています。



▲商品カタログ「ハビ・デリ!」での表示



▲店舗では、主原料の第3位まで表示

環境

コープとうきょう バイオディーゼル燃料を使用した配達 実験開始

5月26日から、レジ袋代金*の活用の一環として、店舗で使用した揚げものの油を原料としたバイオディーゼル燃料(BDF)を、コープデリ宅配事業の配達トラックに使用する実験を開始しました。

店舗からコープデリ宅配へという事業内リサイクルを推進し、今後、車両への影響や燃費などについての検証を進めていきます。

※レジ袋代金…コープネットグループの店舗ではマイバッグ持参を呼びかけており、コープとうきょうの店舗ではレジ袋を1枚5円で販売しています。



▲宅配センター内に給油スタンドを設置

福祉

宇都宮市に特別養護老人ホームをオープン

社会福祉法人「ふれあいコープ」は6月1日、栃木県宇都宮市に特別養護老人ホーム「みどり」をオープンしました。「みどり」は全室が個室で、入所者と地域住民や子どもたちが交流できるスペースも設けています。

とちぎコープでは、建設を支援するため「福祉募金(寄付金)」の協力を組合員に呼びかけ、これまでに1万人以上から約6,000万円が集まりました。

「ふれあいコープ」

2006年11月にとちぎコープの介護事業を移管して設立した社会福祉法人。訪問介護・居宅介護支援を始め、デイサービスや福祉用具のレンタル・販売なども行う。



▲開所式では、宇都宮市の佐藤栄一市長からごあいさつをいただきました

リサイクルの流れ

